

白山ふるさと文学賞

第五回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生高学年の部 最優秀賞

母への思い

蕪城小学校六年

可部谷 かべたに

妃生 ひな

お母さんは、いつもおこります。

「宿題はしたの。ゴミは捨てなさい。電気を消しなさい。」

「数えたら、きりがありません。私は、「なんでこんなに怒られるのかな。」はいはい。また同じことですね。」と聞きながら心の中でいつも思っています。私もお母さんも、毎日この繰り返しです。

夏休みにはいると、それがいつそううるさく言われるようになりまして。お母さんが帰る時間だとわかってはいるけど、なかなか思うようになりません。結局、夏休みの終わりに近づくまでこんな感じでした。自分でも怒られるのに慣れているのかと思っていました。けれど、この作文を書こうと考えているうちに、これは全部自分のことなんだと思ってしまう。そして私は、だれかがやってくれるからと思っっている自分に気づいてしまいました。

そこで、私はお昼に自分の食べ終わった食器を弟といっしょに洗ってみました。私は食器を洗う係、弟は洗い終わった食器をふく係です。食べ終わった食器は、私と弟二人分なのでそんなに多くはありませんでした。これならかんたんだと思いきい終わると、弟が、

「なんかぬめぬめしているし、あわもまだついてるよ。」

と言いました。私は、ビックリです。せっかく洗った食器をまた洗い直さないといけないと思うと、とてもいやな思いになりました。けれど、さわってみるとぬめぬめしているし、これで、またご飯を食べるのはいやです。私は洗い直しました。

いつもご飯を食べると洗い物が出て、お母さんが洗ってくれています。洗うだけならかんたんだと思っていたけれど、やってみると時間はかかるし、まわりは水でびちゃびちゃになるし、自分で思うよりできませんでした。終わってみると、いつもよりきれいに見えます。私は、なんだかスッキリした気分になりました。

夕方、お母さんが帰って来ると、お母さんはビックリしていました。

「どうしたん？何があったん？すごいじ、ありがとう。」

と、言われました。私はとてもうれしくなりました。少し、お手伝いをするだけでこんなに喜んでくれる。帰ってきておこらないお母さんは久しぶりでした。でも、次に、

「ゴミはゴミ箱でしょ。」

と、またいつものお母さんに戻ってしまいました。

次の日、また私と弟で食器を洗ってふきました。この日は、弟には何も言われず、きのうより早く洗い終わりました。そして、ゴミはゴミ箱に捨てました。電気も消しました。これでお母さんに何も言われることはありません。お母さんが帰ってくると、

「どうしたん？今日も食器を洗ってくれたん。すごいじ。」

と、言われました。けれど、ゴミを捨てたことは何も言いません。今日は、お母さんにいわれたことを全部したのに、気づかないので私はお母さんに、

「まだあるやろ。ゴミも捨てたし、電気も消してあるよ。」

と言うと、お母さんは、

「何を言うてるん。当たり前のことやろ。」

と言って、笑いました。私は、当たり前のことをやっていなかったけれど、少しはほめてくれてもいいのにと思いました。また、次の日、私はどうしようか迷っていました。昨日と同じように、お母さんに言われたことをやろうか、やめてしまおうか、とてもなやみました。けれど、もう一回やってみようと思っ、全部やってみました。お母さんが、帰ってきて、

「今日もなん？めっちゃ助かる。」

と言って終わってしまいました。私は、「こんなに頑張ってもやっぱり全部はわかってくれないのかな。明日はやめようかな。」と思っ、しまいました。夕飯の時間、私の好きな食べ物がたくさん出てきました。いつも、作ってくれないのに、誕生日でもないしなんでだろうと思っ、聞いてみました。

「今日は、どうして私の好きな食べ物があるの？」

「なんでかな。お母さんも帰ってきて食器とか部屋がきれいになってると思うと、少し楽しいからかな。ごほうびや。」

と、言いました。私はなんだか今日も続けてよかったと思っただし、ゴミも捨ててきれいにしたのをわかってたんだと思いました。全部ほめてくれなくても、何も言わなくても、わかってくれていたと思うと、とてもうれしくて、ご飯もとてもおいしかったです。そして、いつも私がテレビをみている時は、バタバタしているお母さんが、今日は、いっしょにテレビを見て笑っていました。

「今日の宿題は終わったの。」

と、聞かれるのはいつもいやだけど、今日はなぜかいやではありませんでした。私は、お母さんが笑ってくれるとうれしいです。毎日、おこっているお母さんは、いつものお母さんだけど、たまに笑っているお母さんを見るのは好きです。今日は、いつもよりたくさん笑って話をしたように思います。

私が、当たり前のことを続けているとお母さんがたくさん笑うことができるのかなと思うと、頑張ってみようと思いました。この三日間続けたことは、私はめんどくさいときもあつたけれど、毎日お母さんが、続けているんだと思うと、すごいなと思います。

けれど、私もお母さんといっしょにお手伝いを続けていると、お母さんといっしょにいる時間が増えるんだと分かったとき、私は、もっともつとお手伝いや自分ができることをやってみようと思いました。そして、今度は、ご飯を作りたいと思いました。どんな顔をするのかな。何て言ってくれるのかな。とてもとても楽しみです。

